

# 金剛萱遺跡の旧石器文化7-2022-

Palaeolithic Culture of the Kongogaya site in Gunma Prefecture, 7, 2022

金剛萱遺跡研究会\*<sup>1</sup>

Kongogaya site research group

キーワード：後期旧石器時代、石器、発掘、無斑晶質安山岩、尖頭形剥片

Key words : Upper Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, flake point

## はじめに

金剛萱遺跡は群馬県甘楽郡下仁田町青倉にある独立峰の標高 788 m の金剛萱の頂上より一段下にある緩斜面地に所在する旧石器～縄文時代を主体とする遺跡である。金剛萱遺跡は2007年から地質調査が

始まり、コンニャク畑地点は2009年に旧石器～縄文時代の遺跡と確認された（金剛萱遺跡研究会ほか編2014）。コンニャク畑地点より標高が高い林道地点は、2011年に調査が開始され2020年までに12回の発掘、地質調査が実施されている（金剛萱遺跡研究会2016, 2017, 2018, 2019, 2020）（第1表）。その後、

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期間	人数	出土点数	人工品	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	剥片, 石斧調整剥片?
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	剥片, 石斧調整剥片?
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	削器, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	折断剥片, 剥片
第7回	2017.10.28	6	5	5	折断剥片, 剥片
第8回	2018.4.28-30	25	23	19	折断剥片, 剥片, 碎片
第9回	2018.10.27-28	8	2	2	折断剥片, 剥片
第10回	2019.4.27-29	21	35	34	折断剥片, 剥片, 碎片
第11回	2019.8.31-9.1	11	7	7	二次加工剥片, 折断剥片, 剥片
第12回	2020.10.2-4	10	19	17	折断剥片, 剥離痕のある剥片
第13回	2022.11.18-20	15	7	6	尖頭形剥片, 剥片
		218人	175点	140点	
	期間	人数	場所	主な調査内容	
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査	
	2017.9.23-24	9	馬山、町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査	

2023年3月11日受付. 2023年3月15日受理.

\*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付  
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan (naka-m@opal.plala.or.jp)

執筆者：中村由克<sup>○</sup>, 麻生敏隆, 須藤隆司, 小林忠夫, 斉藤尚人, 竹村健一

<sup>○</sup>執筆責任者.

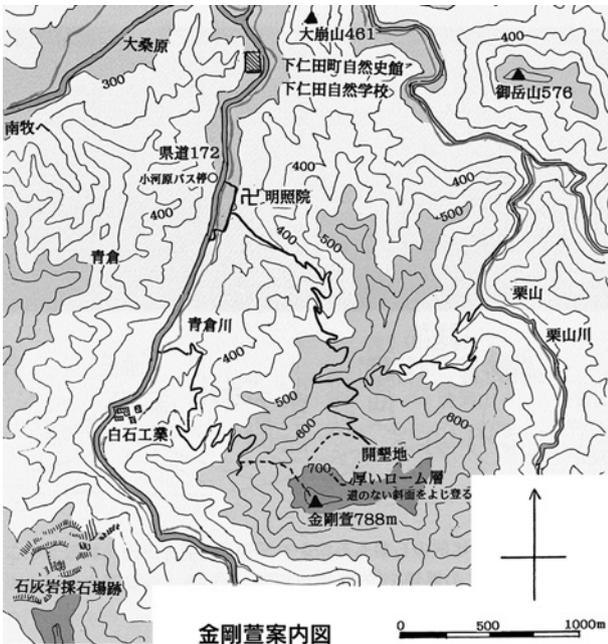
コロナ感染症の影響で中断をはさみ、2022年11月18日～20日に第13回の発掘調査を行った。調査地付近は地形図以上の正確な標高が求められず不明であるが、国土地理院の電子国土 WEB から読み取った標高は、コンニャク畑地点が約 680 m、林道地点が約 695 m である。本稿は、2022年発掘調査の概要を報告する。

### 2022年発掘調査地の状況と調査の概要

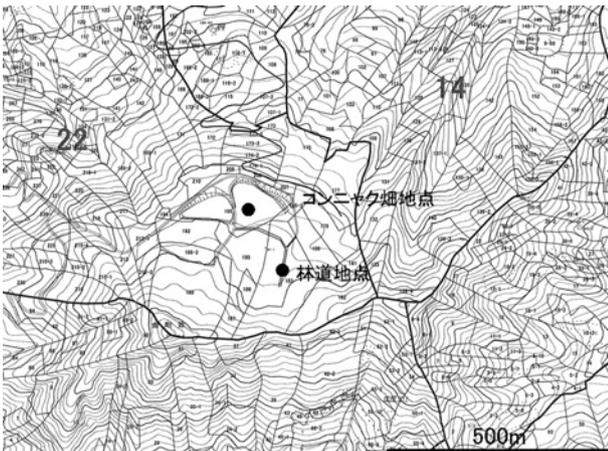
発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林地の中にある。広い

コンニャク畑（コンニャク畑地点）の南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である（第1図）。この場所では作業道は原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、下仁田ローム層上部（関東火山灰グループ 2009）が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しなくても目的とする AT 層直下の暗色帯を調査できる状況となっていた。

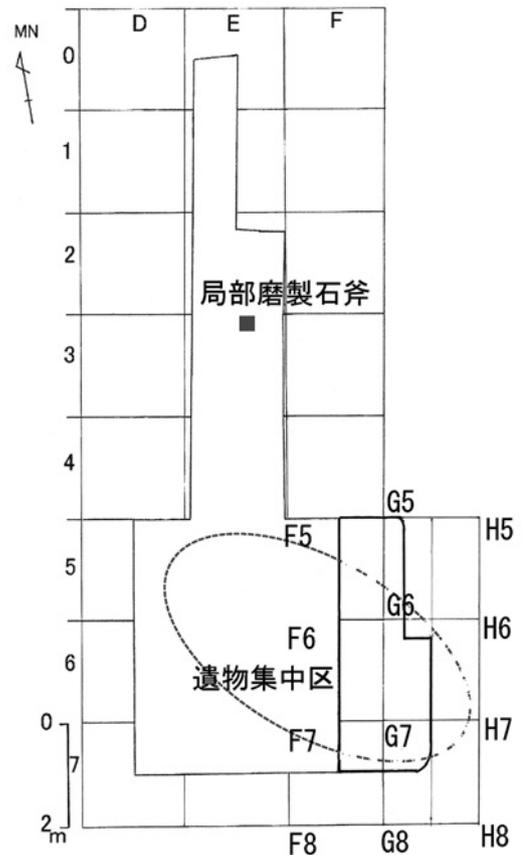
発掘地における地質層序は、作業道部分では地表からかなり削平されている状態であった。上位より表土が 20~0 cm, 20~10 cm 黄褐色ローム層, 20~0 cm 褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）, 20 cm 黄灰色ローム層, 13 cm 赤褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）, 10 cm 黄褐色ローム層, 5 cm ± 明褐色砂質風化火山灰層（始良 Tn 火山灰 AT）, 15 cm 黄褐色ローム層, 10 cm 暗褐色ローム層（暗色帯）, 4 cm ± 明黄褐色軽石層（Yt-Pm4）, 25 cm 暗褐色ローム層（暗色帯）という層位である。剥片等の遺物は、この AT



金剛萱案内図



第1図 金剛萱遺跡林道地点の位置



第2図 金剛萱遺跡林道地点の調査位置図

層準から下位の暗色帯付近から多く出土しており、特に Yt-Pm4の層準付近が安山岩石器群の生活面とみられる。

### 2022年発掘調査の経過

掘削調査は、2022年11月18日-19日の2日間で、参加者は15名であった。両日も晴天で、調査は順調に進められた。

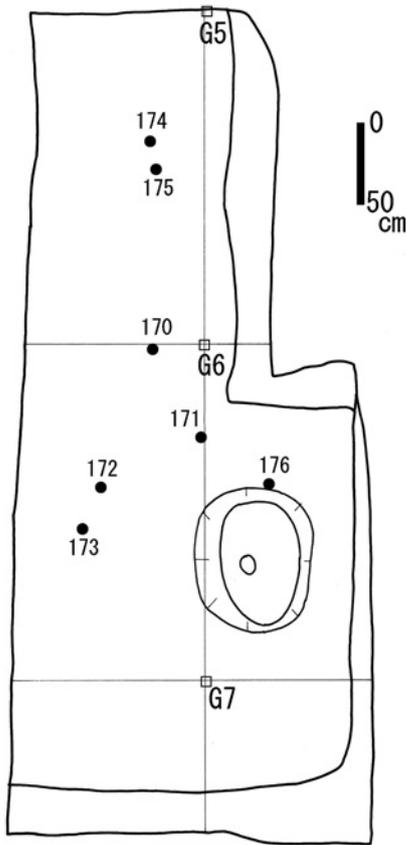
作業道部分は2020年調査までに完了しており、2022年は従来のグリッドを東の山側に拡張して設定した。グリッドは2m単位で、F5、F6グリッドとF7グリッドの東半分とさらにG6、G7グリッドの西半分の5m×1mと3m×1mを中心とした合計9m<sup>2</sup>である(第2図、第3図)。今回の発掘箇所は初めて掘る場所であったので、最初に重機で黒色土を中心に表土をはぎ取り、ローム層に入ってから人力で掘削を始めた。掘削はすべて手掘りで、遺物包

含層が予測される Yt-Pm4層準を掘りきることを目指して全体を掘り進めた。今回も前回同様に年代測定用の炭化物の採集を目的としたが、炭化物は得られなかった。一方、無斑晶質安山岩製の剥片等7点が出土した。

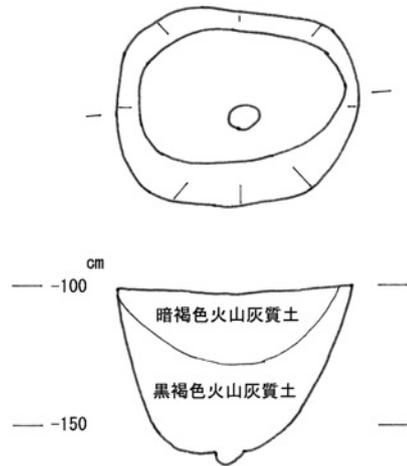
なお、遺物の垂直位置は、第1回発掘以降、調査グリッド北西端のA杭(E0より1m南)を基準として、+200cmにレベルを設定して発掘地および出土品の位置を計測している(金剛萱遺跡研究会2017)。

### 出土した遺構・遺物

金剛萱遺跡の発掘では、遺構としては陥し穴1基が検出された(第3図、第4図)。G6グリッドの西よりに、南北85cm、東西68cmの楕円形のプランで、



第3図 金剛萱遺跡林道地点の遺構・遺物分布図



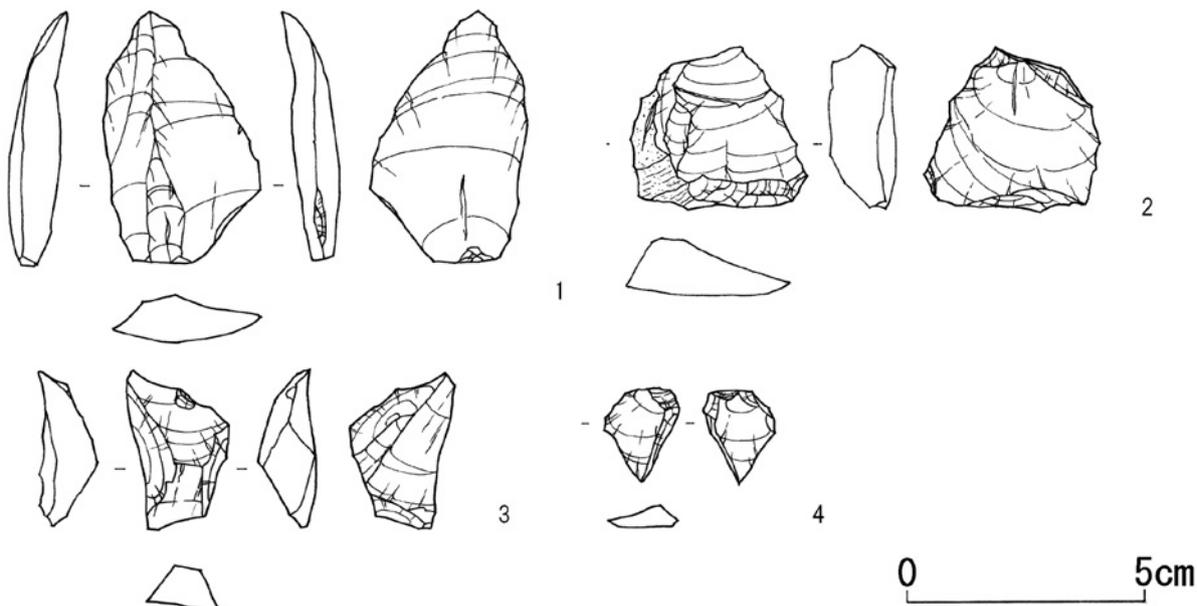
第4図 陥し穴の実測図と写真

確認面からの深さ 56 cm, 穴の中央には直径 12 cm で深さ 6 cm の逆茂木用の小孔が確認された。内部には黒褐色ないし暗褐色の火山灰質土が詰まっていた。覆土から判断すると、縄文時代の所産と思われるが、具体的な時期は不明である。なお、本地点で縄文時代の遺物はこれまで出土していない。

金剛萱遺跡林道地点の第13回調査で出土した石製の資料は、総数7点である。緑色岩の石片1点を除き、他はすべて無斑晶質安山岩製である。

以下は第13回調査で出土した主要な旧石器時代の遺物を記載する（第5図、第2表、第6図、口絵2-②）。

1は尖頭形剥片である。平坦打面から剥離した縦



第5図 第13回調査出土遺物の実測図

第2表 金剛萱遺跡・林道地点第13回調査出土の遺物一覧

No.	図版	遺物番号	名称	石材	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g	深度cm	備考
1	3	KON2211-170	剥片	無斑晶質安山岩	36.9	20.5	13.0	7.0	132	AT下
2	2	KON2211-171	剥片	無斑晶質安山岩	39.6	38.7	12.8	16.5	112.5	MP直下
3	4	KON2211-172	剥片	無斑晶質安山岩	21.1	14.1	4.2	1.0	139	AT下
4		KON2211-173	碎片	無斑晶質安山岩	12.7	9.3	3.4	0.1	136	AT下
5	1	KON2211-174	尖頭形剥片	無斑晶質安山岩	56.4	31.2	9.8	14.0	139	Yt-Pm4層準
6		KON2211-175	碎片	無斑晶質安山岩	7.5	7.4	2.3	0.1	141	Yt-Pm4層準
7		KON2211-176	石片	緑色岩	29.1	14.7	11.4	9.2	105	MP



第6図 第13回調査出土遺物の写真

長で、先端が尖った剥片である。剥離方向はすべて同一である。両側縁は鋭い刃部となりうる形状をしている。二次調整は認められない。

2は台形状の剥片である。平坦打面から剥離され、台形状を呈する。

3は厚手の剥片を素材として、折断による剥離痕が見られる剥片である。台形状の形状を呈している。

4はごく薄い剥片である。

5, 6は碎片である。

いずれも風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な無斑晶質安山岩であり、八風山産と推定される。

おもな遺物の出土層序はATより下位の暗色帯中で、Yt-Pm4の層準付近である。群馬編年のI期(小菅ほか 2004)、武蔵野編年のX層からIX層にかけてと比定される。

### 金剛萱遺跡第13回調査の意義

林道地点第13回調査は、前回までに作業道部分で確認された遺物集中区の広がりを東方山側に拡張して、遺物の広がりを調べることが目的であった。この遺物集中区は、前回までに暗色帯中に含まれた無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、打面調整があまり行われず、平坦打面によるやや厚めの幅広で寸ぶまりの剥片剥離がおこなわれていること、定型的な石器完形品がなく、剥片等が中心であることなどの特徴がみられる。このブロックでは接合資料を含み、折断剥片が多く確認されている。剥片を折断加工して台形様石器としての用途で利用したものと推定される。

今回の特筆される成果は、このブロックの中から尖頭形剥片が確認されたことである。尖頭形剥片は、約20km北西方の長野県佐久市の香坂山遺跡(国武ほか 2021, 2022)の構成遺物の1つであること、そして、出土層準が香坂山遺跡と同様にAT下の暗色帯の中でもYt-Pm4に対比される軽石が点在する層準に含まれることから、金剛萱遺跡と香坂山遺跡が同時代の石器群である可能性がでてきた。香坂山遺跡は後期旧石器時代の最初期のもので、

InCalによる較正年代の中央値は36,410 cal BP(国武ほか 2021)とされており、金剛萱遺跡との関係が期待されるが、この点は今後の調査と合わせて究明したい。

さらに、香坂山遺跡で出土した刃部磨製石斧は緑色岩製で、石質と原礫形状から原石採集地は、群馬県神流町万場付近の神流川河床と推定されている(中村 2021)。万場と香坂山をむすぶ直線は金剛萱付近を通る。当時の人類が尾根づたいの移動路を通ったとすれば、その経路上に金剛萱が位置することも興味深い点である。

### 謝 辞

調査にあたっては、地主の泉 英明氏、うず潮レーシングの福本敏夫氏、青倉の神戸 求氏には大変お世話になった。下仁田町教育委員会と下仁田町自然史館には、指導・協力をいただいた。また、本稿は2名の査読者によって改善された。これらの方々に記して感謝する次第である。

### 文 献

- 関東火山灰グループ(2009) 群馬県甘楽郡下仁田町でみつけた下仁田ローム層の砂粒組成. 群馬県立自然史博物館研究報告, 13, 87-93.
- 小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆(2004) 群馬の旧石器. みやま文庫, 175P.
- 国武貞克・須藤隆司・堤 隆(2021) 日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源. 旧石器研究, 17, 125-146.
- 国武貞克・須藤隆司・中村由克(2022) 香坂山遺跡の立地と遺跡構造. 旧石器研究, 18, 101-112.
- 金剛萱遺跡研究会(2016) 金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化. 下仁田町自然史館研究報告, 1, 1-20.
- 金剛萱遺跡研究会(2017) 金剛萱遺跡の旧石器2-2015・2016-. 下仁田町自然史館研究報告, 2, 51-58.
- 金剛萱遺跡研究会(2018) 金剛萱遺跡の旧石器3-2017-. 下仁田町自然史館研究報告, 3, 23-26.
- 金剛萱遺跡研究会(2019) 金剛萱遺跡の旧石器4-2017・2018-. 下仁田町自然史館研究報告, 4, 37-44.
- 金剛萱遺跡研究会(2020) 金剛萱遺跡の旧石器5-2019-. 下仁田町自然史館研究報告, 5, 27-34.
- 金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著(2014) 金剛萱に旧石器時代をさぐる-金剛萱遺跡と下仁

田ローム層ー。下仁田自然学校文庫8, 56P.  
 中村由克 (2021) 石器石材の分析. 香坂山遺跡2020年発掘  
 調査成果報告書, 奈良文化財研究所, 143-147.

**調査参加者**

(2022年11月18日-19日)  
 麻生敏隆, 今井 洋, 今井よし子, 岩井裕子, 岩崎正  
 春, 小林忠夫, 斉藤尚人, 須藤隆司, 須藤ひろ子, 須藤  
 芳雄, 竹村健一, 寺尾真純, 中井 均, 中村由克, 諸角  
 太一  
 以上15人

**(要 旨)**

金剛萱遺跡研究会 (2023) 金剛萱遺跡の旧石器文化7-2022-。下仁田町自然史館研究報告, 8,  
 27-32.

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で, 2022年に第13回の調査を行なった。この調査で後期旧石  
 器時代前半期の剥片6点が出土した。八風山産と推定される無斑晶質安山岩を石材としている。こ  
 の中で尖頭形剥片は佐久市香坂山遺跡の構成石器の1つであり, 出土地層も同じなので, 両者の関  
 係解明が今後の課題である。

**抄 録**

フリガナ	コンゴウカヤイセキノキュウセッキブンカ
書名	金剛萱遺跡の旧石器文化7-2022-
副書名	
シリーズ名	下仁田町自然史館研究報告
シリーズ番号	第8号
編著者名	金剛萱遺跡研究会
編集機関	下仁田町自然史館/370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1
編集機関所在地	370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1
発行年月日	2023年3月31日
調査期間	2022.11.18~2022.11.20
調査面積	9m <sup>2</sup>
調査原因	学術調査

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地			地町村 コード	遺跡 番号	北緯	東経
コンゴウカヤイセキ 金剛萱遺跡	グンマケンカンラグンシモニタマチアオクラコンゴウカヤ 群馬県甘楽郡下仁田町青倉金剛萱1031番			10382	54	36度10分53.5秒	138度46分55.2秒
	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物			
	散布地	旧石器時代 縄文時代	陥し穴1基	尖頭形剥片, 剥片			